

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]

(平成 29 年 7 月解析分)

■ 今月のトピックス ～蚊が媒介する感染症に注意しましょう～

蚊の多い季節がやってきました。蚊によって媒介される感染症には、デング熱やジカウイルス感染症、日本脳炎、マラリア、チクングニア熱など多数存在します。

日本国内においては、平成 26 年に、約 70 年ぶりにデング熱の国内感染が発生し、162 名の感染が確認されました。また、平成 27 年以降、ブラジルを中心としてジカウイルス感染症の発生が多くの人に広がったことが話題になりました。

広島県では、感染症法に基づく届出が開始された平成 11 年以降、蚊媒介感染症の県内感染例はなく、デング熱等の輸入感染例が、毎年数例報告されている状況ですが、デング熱の患者は世界で毎年 1 億人に上るとも見られ、今後、輸入感染例を起点に、県内で、いつ感染が広がるかわかりません。蚊が媒介する感染症の県内流行を防止するため、普段からの対策をお願いします。



■ デング熱・ジカウイルス感染症について

デング熱やジカウイルス感染症（ジカ熱）の原因となるウイルスは、それらを発症した人の血を吸った蚊（日本ではヒトスジシマカ）の体内で増え、その蚊がまた他の人の血を吸うことで感染を拡げていきます。

感染してもすべての人に症状がでるわけではありませんが、発熱や関節の痛み、発疹といった症状が 1 週間ほど続きます。

また、ジカ熱は妊婦が感染すると小頭症などの先天性障害をもった子供が生まれたり、デング熱では出血を伴うデング出血熱となり重症化する可能性があります。



■ 予防方法 ～蚊に刺されないこと、蚊の発生源をなくすこと～

【蚊に刺されないようにしましょう】

- ・日中、蚊の多い場所に行くときには、長袖、長ズボン等を着用し、肌の露出を避ける。
- ・虫除け剤を使用する。



【蚊の発生を防ぎましょう】

- ・雨水がたまった容器の水をなくす。
- ・やぶ、草むらは刈取り、日当たりと風通しを良くする。

【その他】

- ・海外で感染後帰国し、国内で発症した症例が、毎年、全国で 200 例程度報告されています。
- ・帰国後に発症した場合は、速やかにお近くの医療機関を受診してください。受診の際は、医師に、渡航先や渡航期間、渡航先での活動などについて詳しく伝えてください。



2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成29年6月分(平成29年6月5日～平成29年7月2日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	17	0.04	0.05	↓	11	ヘルパンギーナ	122	0.42	1.20	↑
2	RSウイルス感染症	14	0.05	0.09	↓	12	流行性耳下腺炎	84	0.29	0.65	↘
3	咽頭結膜熱	192	0.67	1.05	↘	13	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1,009	3.50	2.34	→	14	流行性角結膜炎	106	1.39	0.98	↗
5	感染性胃腸炎	1,964	6.82	5.64	↗	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
6	水痘	75	0.26	0.77	→	16	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.04	
7	手足口病	1,282	4.45	1.55	↗	17	マイコプラズマ肺炎	10	0.12	0.24	↗
8	伝染性紅斑	17	0.06	0.27	→	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	133	0.46	0.59	↗	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6	0.07	—	↓
10	百日咳	6	0.02	0.05	↘						

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成29年6月分(6月1日～6月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	53	2.30	2.25	→	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	70	3.33	4.07	→
21	性器ヘルペスウイルス感染症	19	0.83	0.92	→	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5	0.24	0.51	
22	尖圭コンジローマ	15	0.65	0.76	↗	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.05	
23	淋菌感染症	14	0.61	0.76	↘						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

発生記号(前月と比較)

急増減疾患!! (定点当たり前月比2倍以上増減)	急増減	増減	微増減	横ばい	増減	増減	増減
○急増疾患 ヘルパンギーナ (0.17 → 0.42)	↑	↗	↘	→	↑	↗	↘
○急減疾患 インフルエンザ (0.26 → 0.04)	↓	↘	↗	→	↓	↘	↗
RSウイルス感染症 (0.11 → 0.05)							
感染性胃腸炎(ロタウイルス) (0.21 → 0.07)							
					→	→	→
							ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患、月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	50	結核(50)〔西部保健所(4), 東部保健所(6), 西部東保健所(12), 北部保健所(1), 広島市保健所(16), 呉市保健所(6), 福山市保健所(5)〕
三類	3	腸管出血性大腸菌感染症(3)〔西部東保健所(1), 広島市保健所(2)〕
四類	16	デング熱(1)〔西部保健所(1)〕, レジオネラ症(6)〔西部保健所(3), 東部保健所(1), 広島市保健所(1), 呉市保健所(1)〕, 重症熱性血小板減少症候群(2)〔西部東部保健所(1), 東部保健所(1)〕, 日本紅斑熱(7)〔東部保健所(6), 福山市保健所(1)〕
五類全数	30	アメーバ赤痢(1)〔広島市保健所(1)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(7)〔西部保健所(1), 西部東保健所(1), 東部保健所(1), 広島市保健所(3), 呉市保健所(1)〕, クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔広島市保健所(1)〕, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(1)〔福山市保健所(1)〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(3)〔西部保健所(1), 西部東保健所(1), 福山市保健所(1)〕, 水痘(入院例)(1)〔福山市保健所(1)〕, 梅毒(16)〔東部保健所(1), 広島市保健所(5), 福山市保健所(10)〕